

■ ちょっと一息



懇親会風景



村田理事の演奏（懇親会にて）



内ノ浦宇宙空間観測所



2日目昼食（コスモピア内ノ浦）

■九州森林フォーラム in 小国について

11月27日（金）～28日（土）に熊本県小国町において第20回九州森林フォーラム「山へ向かう人々の群像」～IUターン者の活躍と山村の未来～を開催します。多数の会員の方の参加をお待ちしております。詳細は別添の募集案内のとおりです。



QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 北里 耕亮(熊本県 小国町)

第 19 号 since2005.6.1

発行日 2015.10.20

秋も深まり、朝夕は冷え込むようになってまいりましたが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。第 19 号の九州森林ネットワーク通信 (QFN) をお届けします。

本号では、5月に鹿児島県で開催しました第4回会員向けプレミアム研修会の報告を掲載しています。現在新しい構造として注目を浴びているCLTについての視察研修を行いました。中高層建築物の木造化を可能とし、国産材の需要拡大が期待されているCLTの現場からの声が聞かれ、活発な意見交換が出来ました。翌日は大断面集成材工場の視察研修を行い、今回も盛況のうちに会員向けプレミアム研修会を終えることが出来ました。この場を借りて、関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

最後に、11月27～28日に記念すべき「第20回九州森林サミット in 小国」を開催します。今回は、「山へ向かう人々の群像」～IUターン者の活躍と山村の未来～がテーマです。九州の山村にも都市から若者や子育て世代のIUターンやUターン者が増加しています。それは「田園回帰」現象とも表現されており、IUターン者の活躍なしに山村の未来も語れません。九州の山々で林業や地域おこしに携わっている皆さんからの本音トークをまじえながら、山村の未来を考えるフォーラムにしたいと思っていますので、多数の会員の皆さまの参加をお待ちしています。

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部：大分県日田市

<編集責任>

熊本県・小国オフィス



ドライブポイント紹介

(写真) 大分県日田市

中津江村

——「下笠ダム」を見下ろす——。

ダム湖畔に見えた村のあと

【目次】

第4回プレミアム研修会報告

P.2～P.4

第20回九州森林フォーラム

告知 P.4



NPO法人九州森林ネットワーク 第4回会員向けプレミアム研修会 in 鹿児島 活動報告

今回の研修会は、今注目されているCLT（CrossLaminatedTimber）中高層建築物の木造化を可能とする工法・技術研修及び大断面集成材利用施設の見学を行いました。参加者数17名（うち3名初参加）

5月15日（金）

山佐木材株式会社研修



工場の全景



佐々木代表取締役



研修風景



工場見学

★非木造建築木造化事業でのポイント…今までなら木造が考えられなかった建築分野に利用可能な木材の生産。

● 山佐木材の事業分野

第一分野：住宅用部材事業、（製材、乾燥、二次加工） **創業以来の稼業**

第二分野：非住宅木造建築事業（集成材、プレカット、設計、建築）

第三分野：非木造建築木造化事業（オリジナル集成材、CLT、超構想木研）

*尚、**第三分野は平成27年に創業。**

*工場が大きくなったものの、最終確認・仕上げには人の目が欠かせない、とのこと。

○山佐木材研修より

- 近年、林野庁が積極的に普及を促している大断面集成材は、施工期間の短縮やC材等の有効活用に適した方法として取り上げられているが、大断面集成材を生産する工場を設立すること自体がとても簡単なことではないという印象を受けた。
- 大断面集成材の建築や2×4の普及は今まで不可能であった分野に木材を使用できるという点で木材利用の推進に大きく貢献する可能性があるが、木の特性を活かした建築(顔の見える家づくり、というような)とは大きく分野が異なっていると改めて感じた。

5月16日(土)

さつまファインウッド

平成25年11月 (株)伊万里木材市場、山佐木材(株)、鹿児島県木材協同組合連合会の3社の出資により設立。

平成27年6月 事業開始予定 ※見学時にはまだ稼働せず



研修風景



工場見学

○さつまファインウッド研修より

- 今後このような製材所が本格的に稼働していくならば、木材を使用するならどのような建築物にしたいのか、なぜ木材であるべきなのかという施工者の意識の高まりと、その需要者の声に応えることが出来る木材生産を供給者が実践していくことがますます重要になると感じた。

基調講演講師 藤山浩 氏 著書

田園回帰1%戦略 ～地元にと仕事を取り戻す～ の読みどころ聞きどころ

みなさんこんにちは、(株)トライ・ウッドの福沢(24歳になります)です。

第20回フォーラムの基調講演講師である藤山浩氏の著書ということで読んでみましたこの本ですが、タイトルの通り、地元にと仕事を取り戻したいと考える地域にとって必要な知識や心構え、戦略などが具体的に提案されています。私は今の土地に移り住んでからまだ1年半ほどでして、現状は新しい地域を知ることで精一杯ですので「地域の将来を考えることはできない」と思いながら読み始めたのですが、研究内容とともに記されている藤山氏の“言葉”に魅かれながら“戦略”に魅かれていきました。そこで是非、このフォーラムの注目点ということで少しご紹介したいと思います。

例えば人口の増加を目標にすることに対して、

～人口とは、人生の数に他なりません。つまり、抽象的な1億という数字ではなく、1億人の人生の問題なのです。数さえ多ければよいということではありません。幸せで美しい人生を一人一人が具体的に享受することが一番大切なのです。～ と意見を述べられています。

また、地域への移住者が増えて欲しいと思う気持ちを

～「昭和ひとけた世代」は、伝統文化の伝承者や土地家屋の所有者として大きな役割を持っています。「昭和ひとけた世代」のなかには中山間地域で培われてきた、人・自然・伝統とのつながりが脈々と生きているのです。ですから、この2010年代中葉において、社会や産業、文化、資産を受け継ぐ次世代の担い手が移住し、ぜひ「昭和ひとけた世代」の「ラスト一周」を一緒に走ってほしいのです。～ と言葉にされています。

地域の課題には明確な解決策も正解もない分、個人の「こうなりたい、こうしたい」という気持ちが大きく関わることが多いのではないのでしょうか。そしてその気持ちこそカタチにし辛く、伝えるにくいものであり、地域がまとまるための重要な一歩となると思います。その点で藤山氏は根拠となる研究データと共に、感じること・想うことを大切にされているのだなと思いました。

私自身は、問題(地域のことに関わらず)を感情でまとめてはいけないと日ごろから反省の日々ですが、山へ向かいたいと考えている方にとっては心惹かれる想いを確信してくれる本、また、中山間地域に住んでいるという方にはその場所の魅力と今後の可能性を再確認させてくれるような本なのではと思いましたのでご紹介させていただきました。

それでは、第20回のフォーラムで多くの会員様とお会いできることを楽しみにしています。

シリーズ田園回帰1

田園回帰1%戦略 —地元にと仕事を取り戻す—

著者 藤山浩 発行所 一般社団法人 農山漁村文化協会